

吃音のある子・まわりの子のホンネ

(思いには個人差があります)

答えがわかっている、言葉が出ない時「分かりません」って言うことがある

緊張するかどうかに関係なくどもってしまう

本当は挨拶したいのに、うまく言葉が出てこない

どもりそうな気がして他の言葉に言い換えたとき、自分の言葉で言えなくて悔しい

吃音のある高校生

小学生の頃から、発表のときは足が震えるほど緊張していました。今も「予期不安」に悩まされるのは、小さいころからの不安の積み重ねが原因になっている気がします。クラスみんなに、吃音のことを知ってもらってれば、もっと気持ちが楽だったと思うのですが、あの頃の僕は、誰にも相談できませんでした。

吃音のことを勉強した高校生

私の友達にも吃音の子がいました。しかし、そのとき、私は吃音のことを知らなかったで、わざとしているのかと思って、その友達に「ふざけないでちゃんと話して。」と言ってしまうました。今は本当に悪いことをしてしまったと思っています。その子は他の子からも、私が言ったようなことを言われていたし、笑われて真似されていきました。本当に辛かったらうと思います。いつかその子に謝れたらいいなと思います。

Q & A

- Q** 本人に吃音を意識させない方がいいと聞きました。吃音のことを話題にしても大丈夫ですか？
- A** 吃音の話題をタブーにすることで、悩みを一人で抱え込ませてしまいます。「話題にすると、吃音を意識させ悪化させてしまう」は、すでに否定されている昔の説によるものです。吃音に対する気持ちを話し合うことが、子どもの気持ちを楽しめます。
- Q** どうして吃音になるのですか？
- A** はっきりとした原因は分かっていませんが、子どもの吃音になりやすい素因や他の複数の要因が、複雑に絡み合っていると考えられています。保護者の関わり方のせいで吃音になるわけではありません。

吃音の情報

- おすすめの本
 - 『吃音のリスクマネジメント』 菊池良和著 学苑社
 - 『特別支援教育における吃音・流暢性障害のある子どもの理解と支援』 小林宏明/川合紀宗著 学苑社
 - 『キラキラ どもる子どものものがたり』 堅田利明著 海風社
 - 『吃音のこと、わかってください』 北川敬一著 岩崎書店
- おすすめのホームページ
 - 吃音ポータルサイト 金沢大学 小林宏明先生 <http://www.kitsuon-portal.jp>
 - 全国言友会連絡協議会 (吃音のある人のセルフヘルプグループ) <http://jsga.amsstudio.jp>
 - NPO 法人 どーもわーく (吃音のある人の就労支援) <http://www.domo-work.com>
- その他
 - 実用英語技能検定(英検)では、受験申込時に「特別措置申込書」を提出すれば面接で配慮が受けられます。

● きつおん親子カフェは

“吃音のある子どもはひとりじゃないよ”をコンセプトに、吃音のある子どもと親を中心とした交流会や講演会などを、1年に3回程度開催しています。保護者、ことばの教室の先生、言語聴覚士、大学生などの有志で運営しています。開催情報は、<https://www.facebook.com/kitsuoncafe>

監修 山崎 和子 (言語聴覚士)
制作 広島市言語・難聴児育成会
きつおん親子カフェ
イラスト はやし みこ
発行 平成29年9月 (第2版)

このリーフレットのお問い合わせ
E-mail [yuko★todakeigo.jp](mailto:yuko@todakeigo.jp)
(★を@に変えてください)

吃音の正しい理解と支援のために

吃音のある子どものまわりの方へ

監修 言語聴覚士 山崎 和子

言いたいことが頭に浮かんでいるのに、その言葉がスムーズに出せない症状を**吃音(きつおん)**と言います(一般的に「どもる」とも言います)。本リーフレットでは、吃音のある子どもたちが、ありのまま(どもりながら話すこと)を受け入れてもらえる環境の中で、自分らしさを十分に発揮しながら成長していくことを願い、吃音の理解と支援のポイントについてまとめています。先生、保護者が話し合いの上で、吃音のある子ども一人一人に合わせた支援に取り組んでいただくための資料としてお役立ていただければ幸いです。

吃音はこんな症状



外から見える症状

本人の心理的負担

言葉を出そうと、体を動かしてタイミングをとる、力むなど、本来発話に必要なない動作を伴うことがあります。

連発は吃音が目立ちますが、心理的負担は比較的少なく、伸発、難発となるにつれ、心理的負担は増える傾向があります。

- 吃音は2～5才頃から始まることが多く、約8割の人は自然に症状がなくなるものの残り2割は吃音が続きます。
- 吃音のある人の割合は100人に1人とされています。